

# 学校通信 強い網

2016年4/5月号  
新版 第79号  
編集  
駿台甲府高等学校  
駿台甲府中学校  
駿台甲府小学校

## 次世代への継承を踏まえて

駿台甲府学園 理事長 山崎 善久

平成二十八年度を迎え、新たな学年への進級をお祝い申し上げます。新入生・保護者の皆様を歓迎いたしますと共に、在校生の保護者の皆様には、日頃より本学園の教育活動にご協力を賜り、改めて御礼を申し上げます。生徒・児童達が生き生きと学校生活を送り、所期の目的に向かってチャレンジするよう、教職員一同が愛情を注ぎ支えてまいりますので、安心してご子女を通していただきたいと思います。

さて、昨年度より小・中・高を通じて、ICT (Information and Communication Technology) 化の推進を行ってまいりました。ICT教育の導入により、教師と生徒・児童間で、コミュニケーションや学習内容の共有等がより容易に行われるようになります。手段の幅も広がり、アクティブ・ラーニング等の手法に加えて、ICT教育を通じて、主体的な学習活動への参加や、学習意欲、思考力、判断力などの向上が期待できます。

それと共に、グローバル教育を推進しております。グローバル人材の育成についてご留意いただきたいのは、語学力・コミュニケーション力だけでなく、「主体的に物事を考え行動する力」、「多様な人々と関わり

協働する力」、「チャレンジ精神」、「異文化の理解や日本人としてアイデンティティの自覚」など、「変化」と「多様性」に満ちた社会を生き抜くための「総合力」が求められている点です。これらのニーズに応えるためにも、様々なプログラムを用意してまいります。これまでの成果は、研修旅行や海外との交流、機器の充実など目に見える形となっております。どうぞホームページやこの「強い網」を通じてその成果の一端をご覧ください。

こうした取組みを強化する中で、最終的な高校の進学実績については、東大・京大を含む世界トップ100大学と国立公立大医学部への進学、それぞれ二桁合格実績を見据えて、これに対応できる体制の構築を図ってまいります。

ところで、駿台甲府では、「文武共存」を唱え、学問、スポーツ、芸術と各分野で多様な生徒を受け入れております。今や子供たちの将来就きたい仕事のトップにスポーツ選手やアーティストがランクされる時代が到来しております。そのような中で、全国的に注目度の高い高校野球で戦力の拡充に努めてきました。高校野球部に駿高OBで読売巨人軍出身の深沢和帆氏を監督として迎え、秋の山梨県大会では十九年ぶりにベスト四に進出し、その効果もあり入部者数も増えております。ここで重要なのは、生徒、保護者、教職員全員で応援する体制

づくり、ムードづくりです。教職員と生徒・児童等、その他学校関係者の全員(ステークホルダー)が一つになり、オール駿台で熱く応援する。プレイする側も、応援する側も、そこから得られる一体感、充実感は計り知れないものがあるはずです。そして、甲子園出場の悲願を達成していきたいと思えます。また、その他の課外活動においても、全国大会でいくつものクラブが活躍しました。ご子女の成長のため、学校と保護者が手を携えてまいりたいと存じますので、ご協力の程をお願い申し上げます。

このような教育・課外活動を行う中で、特に心掛けておりますことは、「いじめ、体罰、ハラスメントの撲滅」です。被害者を絶対出してはなりません、いじめる側が抱える問題にも目を向ける必要があります。そして、弱い者や困っている者を周りが手を差し伸べ助け合っていく、「慈愛」の精神を涵養することが大切です。

また、思春期を迎えた生徒達は年齢と共に、流行を意識し服装や発言に変化が表れてきます。特に式典等の行事の時などは、TPOに応じて正しく公私の分別をつける必要がありますので、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉遣い」、「マナー」等、社会で必要な所作に対応する行動がとれるように啓蒙してまいります。

最後に、駿台甲府学園は三年後の平成三十一年度の創立四〇周年に向けて、中期計画として、中学校の校舎を高校と同じ塩部キャンパスに移設し、中高一貫教育を強化してまいります。その翌年には、現在の大学入試はセンター試験が廃止され、いわゆる新テストが導入されます。また、国立大学では、後期入試から推薦入試へとシフトする動きも見られ、従来の学力観では対応

できない入試が増えていきます。パラダイムシフトを迎え、単一のすでにある正解を目指すのではなく、自ら考え、混沌とした社会を生き抜く能力を自分の中に育ててほしいという、社会や高等教育機関からの希望と要請に基づく動きとなっております。

これらの大学入試を突破する力、社会で活躍できる能力を養成するためには、中学・高校の一層の連携と協力が求められます。中学生は身近な高校生から刺激を受け、高校生は中学生と共に活動することで、より豊かな社会性を身に付けることができ

ます。こうしたことから、本学園では、中学・高校を同じ塩部キャンパスに置くことで、いっそうの教育効果が上がるものと、中学校舎の新設の検討を重ねてまいりました。行事・クラブ活動はもちろん、教科の教育においても、中学と高校の教員が相互に乗り入れることで、より質の高い授業を提供できることをお約束します。このほど、用地手当ての目処がつかまりましたので、この場を借りてお知らせさせていただきます。

これらの事業には多額の資金が必要になります。その資金の一部は借入で賄う予定ですが、皆様からの御支援が不可欠となっております。そのため、広く皆様から所得税控除の優遇策を伴う「周年事業寄付金」、「スポーツ振興寄付金」、「教育振興寄付金」等のご寄付を募り、体制強化の資金源にさせていただきます。

どうぞ趣旨を御理解いただき、卒業生、保護者の皆様を始め、教職員及び関係各方面の御理解の下、今後とも格段の御協力を心からお願ひ申し上げます。

# 入学特集

## 自分の、仲間の素晴らしさを

### 「Discovery (発見)」プロジェクト

高校 普通科 一学年主任 平岡 真人



三十七期生を迎え、四月六日(水)に行われた入学式、天候にも恵まれ、素晴らしい雰囲気で行うことが出来ました。学年通信の題は、”Discovery (発見) (ディスカバリー)”としました。入学した三十七期生の皆さんは、実に多様で、可能性に満ちていま

す。入学式の時の新入生たちの「聞く態度」も非常に良好で、豊かな資質を持っていることを実感することが出来た入学式でした。



また、入学後、二者面談を行いました

が、三十七期生の生徒たちの持つ様々な夢や志を知ることが出来、とても有意義でした。学年として、学校として、三十七期生を全力で応援していきます。ご家庭との連携も密に行い、彼らの大きな夢の実現をサポートしていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 新入生を迎えて

高校 美術デザイン科 四條 朋恵

一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年は男子十名、女子が二十三名の三十三名の生徒たちが入学しました。

入学式、始業式では口数も少なく、緊張した面持ちでした。しかし、自己紹介が終わり時間が経つにつれて、同じ趣味をもった友人や気の合う友人をすぐに見つけて話をしている姿が見受けられました。昼食も席が近い人たちを誘い合って、机をくっつけて楽しく談笑しながら食べていました。とても良いスタートが切れたのではないかと感じていきます。

これからの三年間で、美術活動はもちろんのこと、行事や部活動、ボランティアなど多くのことにチャレンジをして、多くのことを吸収してもらいたいのです。そして、何か夢中になれるものを見つけてもらいたいと思います。また、自分や周りの人たちを思いやり、過ごしやすいクラスをみんな協力して作っていきましょう。保護者の皆様にもご理解とご協力をお願い致します。

## サクラ

中学校 一学年主任 鹿山さおり

「好きな花は何ですか？」しばらく考えてみる。スイートピー、チューリップ、バラに：そうそうヒマワリ。それぞれの花には必ず、それにまつわる思い出がある。大好きな人からもらった花束だったり、夏休み宿題の題材にした花だったり。

今年の入学式はサクラが見事でしたね。前日の雨に打たれても、その可憐な花は枝の先まで淡く色づいていて、時折、花びらを散らしていました。

二十四期生一四三名は、それぞれの思いを胸に、晴れて駿中生となりました。これまでの人生の中で、もしかすると一番大きな変化を迎えた日だったかもしれません。この先、何十年も、どんなに辛く大変なときでも、中庭のサクラがみなさんにとって特別な存在であってほしい、そんなことを思いました。

どうやら、またひとつ、花にまつわる思いが増えそうです。三年、いえ六年先までも、みなさんと一緒にサクラの季節を迎えたいものです。

「好きな花はサクラです。何故って、二十四期生入学式の思い出の花ですか。」



## はなまるいっぱい的一年

小学校 一学年主任 花輪 美樹

「学校が楽しい!」学校大好き!という言葉が絶えない元気いっぱい的一年生。桜が満開に咲き誇る四月五日、待ちに待った駿小十五期生七〇名が仲間入りしました。入学式で、担任の先生から名前を呼ばれると、全員が大きな声で「はい」と返事をするので嬉しかったです。早速、そのことを最初の学級開きで褒めてあげました。

始業式には、列に並べるようになり、日々成長を見せてくれる一年生。一日目から六時間授業が始まり、今までの生活とは大きく変わるため、さすがに疲れているかなと気に掛けると、「もう少し学校にいたいな!」と話す子も。早くも小学校生活の順調なスタートが切れていることにほっとしました。



今年のテーマは「はなまるいっぱい一年生」。この一年間、初めての体験や発見をしながら、たくさんのはなまるをもらえるようにとの願いが込められています。十二年間一貫教育の土台となる一年間は、心も体もしなやかに成長してほしいと思います。できる喜びを実感させ、わかる楽しさを共有しながら、教員共々「はなまる」の一年になるよう全力で支援してまいります。



# グローバル特集

## 短期語学研修を終えて

カナダコース(高校)

板山 武久

三月六日〜十七日の日程で高校二年生(三十五期)二十四名を引率し、カナダ・オンタリオ州ハミルトン及びアメリカ合衆国ニューヨークへの短期語学研修へ行ってきました。

最初の一週間はオンタリオ州にあるDundas Valley Schoolで英会話プログラムや普通授業への参加、現地学生に対して日本文化の紹介と体験活動といったカルチャー・シェアリングを行うなど、英語スキルと異文化理解のスキルアップを図りました。生徒は皆ホームステイを行ない(教員も含めて)、カナダの一般家庭の生活を体験でき、非常に有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。



Dundas Valley School で現地生徒との記念撮影

週が明けてからはニューヨークに移動し、コロンビア大学の見学やイェール大学などのオープンキャンパスツアーに参加しました。駿台予備学校創設者の山崎寿春先生がイェール大学の大学院を修了したという話を事前にして

いたこともあり、生徒たちは感慨深げに学内を見学していました。またニューヨーク市内の見学も行ない、自由の女神が見える公園やグラウンドゼロ、ソーホー地区などを散策、さらには地下鉄に乗車するなど普段ではなかなかできない体験もすることができたと思います。

この研修を通して、何が変わったかと問われると生徒たちの顔つきが変わりました。二週間近くのあいだで人間ここまで大人になるものかと一緒に行った私が一番びつくりしています。駿台甲府高校の生徒として初めてカナダへの語学研修を行いました。英語スキルの上昇はもちろんのこと人間的に成長できたということでは大成功だったと思います。



コロンビア大学にて

## オーストラリア研修

中学 山下 敏伸

卒業式を終え、中三生四十八名はオーストラリアに向けて出発しました。今年度はアデレード近郊のWoodcroft、Endeavourの二校に加え、アデレードから車でおよそ一時間南に下った海辺の町・ビクターハーバーにあるInvestigator、Encounterの計四校で受け入れていただきました。

オーストラリアの英語は独特のなまりやスラングも多く、しかも大部分の人が早口で話すため、すぐたいへんでした。けれども、さすが「多民族・多文化共生国家」。出会う人はみなフレンドリーで優しく、困っている様子を見せるだけですぐに助けてくれます。生徒を受け入れる家庭には同年代の子供がいる家が多く、同じ学校に通いながら、語学研修だけでなく、楽しく異文化交流をできました。

午前は駿中生だけで英語やオーストラリアの文化についてレッスンを受け、午後は現地の子供たちとの教室に入るのが基本でしたが、やはり帰宅してからのひと時は事前の不安も含め印象深かったように



す。週明け、休みにあつたことを早口の日本語で語る生徒の様子から、語学研修にとどまらな、もっと大きな意味でのGlobalを実感することができました。つたない英語を話す異国の子供たちを受け入れてくれたホストファミリーのみなさん、このプログラムの成功に尽力くださった現地スタッフのみなさんに感謝したいと思います。

今回、環境にも恵まれ、研修自体はとても充実したものになりましたが、問題はここから。「楽しかった」をどういう形で、今後につなげられるかがとても大切だと思います。「もつと英語がわかるようになりたい」「日本の文化や習慣をきちんと紹介できるようにしたい」「海外で学びたい」など、個々の課題だけでなく、グローバル社会の展望や問題などを深く考えるきっかけにしてもらえたらと思います。ホストファミリーはみな優しい方たちばかりでしたが、それでも毎日みなさんの面倒を見てくれる保護者の方々には勝てなかったでしょう。オーストラリアの生活でやや不自由を感じた場面を思い出して、日々の生活のありがたさも感じてもらうとさらに素晴らしい学びになりますね。

## グローバル特集

## 小学校イングリッシュセンター開設

小学校 長澤 宏治

小学校では三月からイングリッシュセンターを開設しました。子どもたちは主に、外国語活動及び英語の授業や休み時間に使用していますが、イングリッシュセンターは、普段使っている教室とは異なり、世界地図や本、DVDなど目に入るもの、そして耳から入る会話も含め全てが英語となつています。小学生で全て英語というのは難しい面もありますが、自分の意見を相手に伝えるために表現しようとする姿勢を身に付けることを期待しています。

三月にプレオープンしたところ、休み時間に本当に多くの子どもたちが詰めかけてくれました。ネイティブの先生とゆっくり話したり、英語の本を読んだり、DVDを観たり、予想以上に楽しんでくれています。これが一時のブームではなく継続的に子どもたちが来てくれるように、様々なイベントも行っていきたいと思えます。このイングリッシュセンターに来室し、より多くネイティブの英語に触れることで、英語を活用する力をつけ、アイコンタクト等の国際的なマナーにも触れる機会になることを期待しています。



## 研修旅行特集

## マレーシア姉妹校 Sekolah

Menengah Kebangsaan USJ 8

## マレーシアアコース (高校)

河崎 哲郎副校長

Sekolah Menengah Kebangsaan は「国民中等教育学校」という意味です。略して SMK USJ 8 と表記されます。



二〇一六年三月十日(木)と十一日(金)の二日間、ホームステイを挟んで SMK USJ 8 と初めての姉妹校交流を行いました。主にマレー系、中国系、インド系の人達が互いにその文化を尊重し合いながら生活している社会で、参加者十四名は同年代の生徒達と交流することで異文化を理解することの重

要性をしっかりと認識してきました。また互いの文化を英語でプレゼンして行く過程で、SMK USJ 8 の生徒達の堂々とした英語による発表を目の当たりにした本校の生徒達は、細かな文法に囚われずに、相手に伝えたいことを伝えるというコミュニケーションの基本を再認識したようです。

二日目には生徒達の英語によるプレゼンテーションは自信に満ちたものとなり大きな成果を上げることができました。ホームステイでは SMK USJ 8 の生徒達の家庭に入り、一泊二日ではありましたが、帰国の際には涙を流して別れを惜しむほど互いの信頼関係を築き、日本とマレーシアの友好的つながりに大きく貢献したことを確信いたしました。

この交流の前に、マレーシア研修のもう一つの目玉としてマラッカ世界遺産を見学してきました。セントポール教会、ザビエル像、サンチャゴ砦と回ってきたわけですが、何よりも印象深かったことはガイドさんが説明するたびに、生徒達が手帳を出してメモを取り始めたことです。そのマレーシア人のガイドさんは日本への留学経験があり、流暢な日本語で説明する方でしたが、十年来のガイド経験で高校生がメモを取りながら説明を聞いてくれたことは初めてだと驚き、とても感動していました。マレーシアでの駿台甲府の評判は恐らくとても高いものとなっていると思います。

今回の研修が今後の生徒達の成長の中で何かしらの意義を持つことを大いに期待しています。

## そして本物へ：

## シンガポールコース (高校)

池田 健太郎

好奇心と期待と興奮でシンガポールに到着した生徒たちは、事前学習から研修旅行は観光ではないと言って聞かされたせいいか、チャンギ空港に降り立った瞬間からその表情は緊張感で引き締まっていました。

多民族・多文化に触れながら過ごした四日間で大きな刺激を受けたようです。特に三日目の英語による講演では、世界で活躍する自分たちの先輩からの体験談を真剣なまなざしで食い入るように聴いていました。

現地大学生のガイドによる市内観光では、英語のみのコミュニケーションに苦労するグループもありましたが、ホテルに帰着したその顔は達成感に満ち溢れていました。

自主的に考えて行動し、最後まで何かを学ぼうとする生徒の姿勢には感心しました。机で学ぶだけでは得られない貴重な経験を異国の地で得て、本物の国際人に必要な何かを感じる事ができたようです。グローバル化で激動する現代社会において、彼らが活躍するときに期待しています。





# 研修旅行特集

## 最後の北海道

北海道コース（高校）

長谷川 亮太

北海道コースは出発の朝に何のトラブルもなく羽田に向かいました。

羽田に着いた途端妙な空模様。敵は濃霧でした。十時三十分のフライトの予定がロビーで一時間半、機内で一時間半待たされ、結局十三時三十分のフライトとなつてしまいました。十六時頃ぐったりしながらしゃぶしゃぶを食べ、ルスツリゾートについて夕飯を二十一時にとりました。

二日目三日目は天候にも恵まれ、ゲレンデにてスキー・スノーボードを堪能しました。初心者から上級者までそれぞれ楽しんでいました。男子より女子の方が技術的に上手だったとインストラクターから聞きました。

四日目は小樽と札幌で文化を学び、昼食、夕食は、新鮮な海産物やラーメンなどをお腹いっぱい食べてきました。集合時間に遅れる生徒も誰もなく、最高の研修をすることができました。

最終日は、羽田に着き、国際線のレストランでリッチなランチを食べ、



甲府に向かいました。北海道コースがこれとなく寂しいかと思うと寂しいですが、また別の機会に北の大地へ行きたいと思えます。

運が悪かったのか、良かったのか

沖縄コース（高校）

奥山 昭隆

全員無事に搭乗完了し、さあ沖縄へとやっと一息、しかし北海道同様濃霧で離陸の予定はたらず、上空には十四機が着陸を待っているとの放送が入り、一体沖縄には何時に着くのか諦めムードでしたが、運良く一時三十分フライト、四時に沖縄到着し、この日は名護に直行した。

二日目午前は小雨でした。安全を確認し予定していたマリンスポーツを行う。生憎の天気だが、少し波もあり、バナナボートは最高だった。午後は美ちゅ水族館に着くと雨も止み、館内ではジンベイザメの餌付けを見ることが出来た。上からのエサに大きな口を開け、サメは水槽に柱のように立っていた。すごい迫力だった。

三日目も雨、午後の平和学習がどうなるか心配だったが、チビチリガマの前で比嘉先生の話も聞け、シムクガマにも比嘉先生方のお陰（道に砂をまいていただいた）で入ることが出来た。四日目の班別行動でも「ひめゆり資料館」、「平和記念公園・資料館」もよく見学していた。午後はそれぞれの見学地、夜は国際通りでの買い物と食事を楽しんだ。

五日目この日天気は良く、沖縄に来たという感じだった。今日帰るのか。エメラルドグリーンのは海はまたの機会に、首里城を見学、帰りは予定通り、談合坂は寒く周囲の雪景色は北海道のようだった。

修学旅行はこんなに楽しい

中学校 羽澤 健

法堂の外で子どもが砂利の上を歩く音が聞こえる。いや、その音しか聞こえない。

その音もいつしか臆になつていく。誰もが「内なる本来の自己」に遭遇しようとして邪念を振り払う。ただただそれに近づこうとした時間は最高に贅沢な時間だった。

修学旅行二日目、広島より京都に移動して、京都で初めての行事が妙心寺での「座禅研修」である。これは、今回の修学旅行で熱望して妙心寺で実施をした行事だ。少々落ち着きのない生徒が多い二十二期生に、少しでも落ち着く時間の素晴らしさを体験してもらいたくて、厳しい座禅研修として評判の高い妙心寺で座禅研修を行った。そしてその効果は……。まだ、分からない。まあ、効果はすぐに現れないものだと思う。ただ、法堂から出てきた彼らの顔は清々しく、凛々しく、美しかった。



今回の修学旅行は、私にとって初めての中学の修学旅行だったわけだが、非常に楽しかった。「楽しい」という感想以外、今回の修学旅行を総括することができないくらいだ。それは、広島、京都が魅力的だったということもある。しかし、

それ以上に二十二期生と一緒に広島、京都に行ったことが楽しかった。彼らとそこにいることが楽しかった。旅行中は小さなトラブルもあったし、夜中に指導をすることもあった。それを含めても楽しい修学旅行だった。



旅を楽しむためには「どこに行くか」も重要な要素だが、「誰と行くか」がもっと大切な要素なのだとも確認できた。二十二期生の皆さん、ありがとうございます。本当に楽しかったですよ。

この修学旅行が、彼らにとってこれから生きていく中でちよつとした支えになったり、迷った時の羅針盤になったり、辛い時の慰めになったり、日本を再評価する教養になったり、笑顔になる思い出になったり、そういうものになってくれれば私たちとしては嬉しい限りだ。眠い目をこすった甲斐がある。

最後に、修学旅行を円滑に運営するために尽力してくれた添乗員の方々、看護師さん、行く先々で精一杯のおもてなしをしてくれた旅館スタッフの方々、そして生徒たちにこのチャンスを与えてくれた保護者の方々にお礼を申し上げます。

素敵な修学旅行をありがとうございます。

### 駿小音楽祭の開催

花輪 悠貴

駿小吹奏楽クラブと合唱クラブは、三月六日(日)にコラーニー文化ホール小ホールにて、第二回駿小音楽祭を開催しました。

第一部は合唱と室内楽のステージ。合唱クラブによる『にじいろ』でステージが始まると、しっとりとしたハーモニイが会場に響き渡りました。他にも『瑠璃色の地球』『サウンドオブミュージックメドレー』を歌い、小学生らしい元気いっばいな歌声と美しいハーモニイで会場を包みました。週二回という少ない練習回数の中、難しい曲にもチャレンジし、曲数も増やして臨みましたが、本番では素晴らしい歌を発表することができました。ゲストの



合唱部は『ブレゼント』『初心のうた』を、室内同好会は『シューベルト Trio DATA』を演奏しました。また小学生合唱演奏『春風の中』も演奏されました。一緒に練習に取り組み、お互い刺激を受けた曲目でした。

第二部は吹奏楽のステージ。吹奏楽クラブは『富士山』『アメリカの歌メ



ドレー』『アラジンよりハイライト』『Happiness』

『銀河鉄道999』の五曲を演奏しました。「歌をとり入れい。」「手拍子をつけたい。」「立って演奏する、

スタンドプレーをつけたい。」と、六年生を中心に、自ら考えた演出の工夫をとり入れました。昨年、秋に行われた山梨県小学校バンドフェスティバルに参加し、県内の吹奏楽を行っている小学生の歌や踊りなどの表現の工夫を見た経験が生かされたステージでした。ゲストの吹奏楽部は『シティーガール・センチメンタリズム』(木管打楽器八重奏)、『65日の紙飛行機』『第九 Brass Rock』の二曲を演奏しました。「こんなに大きな音が出るんだ!」「みんなそろっていて、かっこいい!」という声上がるほど、その演奏は素晴らしいかったです。

今回は、中学校から吹奏楽部・合唱部、高校から室内同好会がゲスト出演しました。小・中・高の音楽好きによる合同での演奏会が実現しました。各団体ともに日頃の練習の成果や努力を積み重ねてきた足跡を発表しました。今後も駿台で音楽活動をしている各団体が一堂に会し、発表し合い交流できる機会として、続けていきたいと思えます。

### 全国高校選抜大会報告

#### 全国選抜大会に初出場しました

テニス部 中村 幸央

三月二十日から福岡県で開催されたテニスの全国高校選抜大会にこの度、男子テニス部は初出場を果たしました。この大会は関東大会で十位以内でないとは出場機会が与えられず、強豪校が揃っている関東で勝ち上がる難しさから、これまで駿台甲府高校テニス部は出場することが出来ませんでした。

各県一校参加できるインターハイよりもさらに狭き門というのが現状なのです。そこで関東大会九位という見事な結果を出し、晴れて今年度参加することが出来ました。

大会初日は入場行進などもある格別な開会式が行われその後、依田隼斗部長が抽選でトーナメントのくじを引きました。

一回戦の相手高は野球で有名な北陸の雄、敦賀気比高校でした。わが駿台甲府高テニス部は果敢に挑み、見事四対一で勝利をおさめることができました。

二回戦は四国一位の香川北高校でした。残念ながら、そこで敗退し、ベスト三十二という結果でした。

出場した選手はまた来年来たい、そこで今年以上の結果を出したいと新たな目標が見つかったようです。

大会出場に際して学校、OB会、保護者の皆様には応援とご支援をいただき、誠に感謝致します。今後何卒よろしくお願い致します。

#### 全国選抜ハンドボール大会を終えて

ハンドボール部主将 依田 純真

僕達男子ハンドボールは三月二十三日に兵庫県で行われる全国高校選抜大会に出場しました。

一回戦の相手は石川県代表の小松工業高校でした。序盤立ち上がりが悪く、シュートが入らなことから焦りからミスをし、前半十五分の時点で六点上の差がついてしまいました。

その悪い流れを変えるためにプレスダイフェンスをかけ相手のミスを誘い前半十六対十八の二点差のビハインドで後半に突入しました。

後半、自分達のペースへもっていきかけたのですが上手いはず、開始直後相手に得点を連取され、何とか追いつけようとしたのですが点差が縮まらず結果三十六対四十一で一回戦敗退となりました。

今大会では、自分達が日頃取り組んでいる練習に対する意識の甘さが出てしまったと思います。大会に向けて、積み重ねてきた練習試合と全国の強豪相手に、盛大な応援を背に受けての試合では、重圧の違いを大きく感じました。

これから夏に行われるインターハイに向けて、今大会の反省を生かし、心技体、全てにおいてレベルアップできるように練習に取り組んでいき、目標のインターハイベスト4以上をめざし、先生方や両親などへ感謝の気持ちをしっかりと頑張っていこうと思います。応援ありがとうございます。